

## 題　　言

時は正に陽春3月、約半歳の長い間雪に鎖されたわが北海道の天地も春の陽ざし漸く麗かに、石狩、天鹽沿岸では疾くも鯉景氣で人気が湧き立つてゐるがこの魚が道内は勿論遠く京阪地方の人々にまで親まれて食膳を賑わし逸早く北海道の春を告げてゐることは餘りにも著明である。

待望の講和條約の發効を豫想される4月の半ば頃ともなれば、いよいよ漁獲の最盛期に入り沿岸到る所夜を日に繼いでその群來に備えて只管豊漁を期待し一方農村地帶もそろそろ耕作がはじまつて、天地にわかつ活氣を呈し艶て迎える瀰漫の好時節を控えて四百萬道民相共に蹶起して天與の富源を開發し獨立日本のホープとして世の期待に副うべく夙夜活躍奮闘する壯觀を想うとき眞に心温まる思いがする。

わが研究所報も茲に第3集を刊行することになつたが昔から物事はすべて三代目で運命が決すると言われている。實にこの所報もいわゆる三代目に相當する譯であるが、然らばその出來榮如何、隆盛か衰退か、これは江湖の批判に俟つとして自ら顧みて満足の域に達していないことは否定し得ない所である。唯併しながら研究所の實際は、その名稱の示すように研究を主たる事業としてこれに没頭することは許されない。これはこの施設の性格からして已むを得ないことであつて、いわゆる高度の調査研究は直接行政上必要な各種の試験検査等當面の業務遂行のかたわらその餘力を以て副貳的にこれを行つてゐる譯である。且つこれを行うについても或は經費その他の關係から掣肘を免れない場合などもあつて研究者自身としては意に満たぬ點もあるが兎に角業務繁多の間に處してこれ丈の發表を爲し得たことは所員諸氏の意氣必ずしも衰えざるものあるを證據立てたものであつて洵に心強く欣快に堪えない。幸に現在所員の實施中に屬する研究のうち二、三のものが厚生省の要望課題に合致し科學研究費の補助を得てその遂行に力づけられている事實もあり、今後一層の精進努力を希望して歇まない次第である。

本誌の刊行に際してつくづく感ぜられたことは本所の事業或は調査研究について本廳衛生部はじめ北海道大學札幌醫科大學及び道内保健所等の協力援助が礎石をなしたことである。茲に衷心感謝の意を表する次第である。

昭和27年3月下旬

北海道立衛生研究所長 中　　村　　豊